

日本文化と関係深い中国文化

「竹取物語」について書こうと思ったけど、授業で学ぶことはとっておきます。竹取物語の授業を楽しみにしておいてね。今回はもちろん古典に関係することで、興味を持ってもらいたいことを書きますね。

皆さんは夏目漱石という小説家を知っていますか。作品を呼んだことがなくても、名前くらいは耳にしたことがあるよね。彼の本名は夏目金之助。漱石はペンネームです。金之助は古風な日本名だけど、漱石ってどういういきさつでつけたのだろうね。考えたことがありますか。



実は、漱石とは「がんこ者」という意味です。どうしてもそれがそういう意味になるのかはこの後述べますが、東京大学英文科をトップで卒業した漱石は、若いころ自己中心的で自分勝手な人間でした。もちろん人の考えや意見などを簡単には受け入れず、絵に描いたような「がんこ者」だったのです。(晩年はそうではなかったからね。)

それでは、「漱石」という言葉がどうして「がんこ者」なのか、説明しますね。

中国の長い歴史の中に、晋(しん)という国がありました。そこに孫楚(そんそ)という武将がいました。若い時に、早く引退したいという気もちを友人に伝えました。

「石で口を漱(すす)ぎ、川の流を枕にして寝たい。」

実はこれは間違いで、「川の流れて口を漱ぎ、石を枕にして寝たい」が正解です。口を漱ぐときは水だよ。それを石でやるといふのだから、だれでもおかしいと思うよね。友人もそれを指摘したのですが、彼はこう言いました。

「石で口を漱ぐのは歯を磨くため。流れを枕にするのは耳を洗うためだ。」

自分勝手な解釈ですね。ここから、一旦自分が言ったことを引っ込めない「がんこ者」を表す「漱石枕流(そうせきちんりゅう)」という言葉ができました。漱石は上二文字を自分のペンネームにしたのです。

このように日本には中国の昔話から生まれた言葉が結構あります。そういう言葉を竹取物語の後に勉強しますね。

「漱石枕流」を生んだこの話から、もう一つ言葉が生まれました。何という言葉かわかるかな。わかったあなた、

「さすが」です!

(五月六日の分)